

モンゴル族の結婚に関わる要素の変容

—内モンゴル農村地域での半構造化インタビュー調査を通して

ウヤンガ（中央大学文学研究科社会学専攻）

少数民族の社会的変遷や少数民族が住む地域の発展に関する研究は現在に至るまで、社会学及び民族学において注目を集めている研究領域の一つである。郝（2008）は、内モンゴル東部地域の農村を対象とし、1995年と2005年の調査結果を比較しているが、それによると未婚率は10%～16%上昇し、離婚者の数はあまり変化していないものの、離婚して再婚した人の割合が高くなっている。また、薩・賽（2005）によると、90年代以降の流動人口に当たるモンゴル人の中では、ほとんどは核家族を希望し、異民族との結婚を望むケースが最も多かった。韓（2014）は、1920年代から1990年代までのモンゴル族の婚姻儀礼の社会における位置づけ、及びその各要素の変化の要因を検討している。その結果、どの年代でも、結婚披露宴に相当なお金をかけており、また、婚姻儀礼の中で基本的な流れに変化があまり見られないが、男性側から女性側に送られる結納品についてみると変化があると述べている。

それにくわえ、筆者の修士論文（2017）での調査によると、現在は内モンゴル農村地域にモンゴル人男性の結婚難問題が起こり、男性が初婚で、女性が再婚の組合が増加し、また、男性は結婚するため、伝統的な生活方式を放棄し、都市に家を購入し、出稼ぎ生活をしている人が増えている。

以上のようにモンゴル族の結婚形態が変容しつつある。先行研究では、モンゴル族の結婚形態の変容や婚姻儀礼についてある程度明確にしているが、結婚ということがその当事者及び親、親戚、地域社会にとってどのような問題として立ち現れているのかという点については必ずしも明らかになっていない。そのため、本研究では、モンゴル族の結婚に関わる諸要素を明らかにし、その要因と変容を把握し、現在の結婚問題とどう関連し、どのような影響を与えているのかを明確にしたいと思う。

研究方法は、内モンゴル農村地域に二回にわたって、年齢層が異なる（20代～80代）36人の対象者たちに半構造化インタビュー調査を行い、対象者の生家、結婚当時の状況（既婚者）、自分の子供に対する期待（子持ち既婚者）、現在の結婚状況への理解などについて調べた。その結果、モンゴル族の結婚に関わる要素について対象者の年齢・性別・既婚・未婚による違いが大きく存在し、一方変容しつつある。

キーワード：結婚要素、結婚形態、変容